

鹿児島大学

No.27

同窓会連合会報



上段左から共同獣医学部研究棟A, B

下段左から軽種馬診療センター / 小動物診療センター / 総合動物実験施設

特別
寄稿

辞書を読む

東 寛治 (教育学部同窓会副会長)

学生と取り組む天文学研究施設の一般公開

中川 亜紀治 (理学部同窓会南明会幹事)

鹿児島大学同窓会連合会

2019年1月

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員をもって組織する。

各学部同窓会

鹿児島大学法文学部同窓会

鹿児島大学教育学部同窓会

鹿児島大学理学部同窓会

鹿児島大学医学部同窓会

鹿児島大学歯学部同窓会

鹿児島大学工学部同窓会

鹿児島大学農学部あらた同窓会

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
- 4 幹事は本会と各学部同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
- 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
- 6 監事は会計の執行状況の監査を行う。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の仕事は、

前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。

3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。

- (1) 役員を選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認めた事項

3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、各学部同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、代表幹事の属する同窓会内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

第27号の会報発行(2019年)に寄せて

同窓会連合会 会長 江口 正純



全国各地や遠くは海外で御活躍中の鹿児島大学のOB、OGはすでに10万人を超え、それぞれの地域でその存在感を示しておられるのは御同慶の至りですが、其の後もお変わりなくご健勝にてお過しの事と拝察申し上げます。

鹿児島大学入学式後の土曜日午後開催されている同窓会連合会総会では傍聴される役員以外の同窓生は毎年増え続けておりますし、夕方からの「鹿児島大学卒業生の集い」と銘打った懇親会では、ご参加者が全ての学部で多くなっている現状は、各地域に於いて鹿大卒業生が地域振興の中核になっておられるだけに嬉しい事だと考えているところであります。同時に県内全自治体の意向を集約して課題解決に対する協力を惜しまない存在でありたいと願っている母校は、地域にとって欠かす事の出来ない知の拠点となっているだけに、そこを支援していこうとされている企業、団体の関心が更に高まり「進取の精神支援会」が設立されましたので、これが海外に雄飛しようとしている学生や若手研究者の背中を押しており母校の勢いそのものを感じているところであります。

尚今卒業生達が在学生の多くに進取の精神を培って貰おうと催しを続けている「きばいやんせ鹿大生」には今年から1～2年生達の参加も期待されているだけに心強い限りとなって参りました。

明治維新150年を迎えた今年のNHK大河ドラマ「西郷どん」で封建制を敷いて世界との関連を断ってきた日本を、近代化に導き世界にその存在を高めていった中であって薩摩に育った若者達の生き方がいかに大きな影響を与え続けていったかを考えた時、今の若者達には常に高い志を持ち続けていって欲しいと願って止まない事をお伝えし、連合会長としてのご挨拶とさせていただきます。

目 次

第27号の会報発行(2019年)に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	8
特別寄稿(教育学部、理学部)	17

学 長 挨拶

鹿児島大学長 前田 芳實



同窓会会員の皆様には、日頃より鹿児島大学の教育・研究に関しましてご理解とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

さて、本学は、大学憲章において、「鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にあり、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学を目指す。」とし、また、第3期中期目標においては、「南九州・南西諸島域の『地域活性化の中核的拠点』としての機能を強化する」としています。

そのようなビジョンを具現化するために、学部、大学院の改組や「地域人材育成プラットフォーム」の開設、さらには、産学連携活動及び地域貢献活動をより一層推進するため平成30年4月1日に南九州・南西諸島域共創機構を設置するなど日々改革に取り組んでいます。

一方、国立大学の法人化以降、国から交付される基盤的経費（運営費交付金）は年々減少しており、教育研究の維持・向上のため外部資金の獲得や資金運用、寄附金の受入など自己収入の確保はますます重要になっています。

本学では、寄附金を原資とした「鹿大『進取の精神』支援基金」や稲盛和夫名誉博士からご寄附いただいた株式及びその配当金を原資とした「鹿児島大学稲盛和夫基金」を設置し、教育研究活動に関する支援に活用しております。「進取の精神」支援基金につきましては、同窓会の皆様方から多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本学では、さらなる自己収入の拡大に向けた取組として、平成30年10月から「古本募金」制度を導入いたしました。この制度は、読み終えた本・DVD等をご提供いただきますと、業者による査定換金額が本学に寄附される仕組みになっています。私も身辺整理を兼ねてこれまで数回古本を提供させていただきました。

本学は来年度設立70周年を迎えます。この機会に是非母校鹿児島大学にお立ち寄りいただき、懐かしい日々を思いを馳せていただきますとともに、新しい校舎や学生福利厚生施設もご覧いただければと思います。その際にお手元に読み終えた本がございましたら、この「古本募金」にご提供いただけますと幸いです。

鹿児島大学の近況

—進取の気風にあふれる総合大学—

(2018年5月から2018年10月までのトピックス)

○鹿児島大学 OB ゴルフ大会実行委員会が寄附（5月7日）

5月7日、鹿児島大学 OB ゴルフ大会実行委員会委員長の江口正純氏（鹿児島大学同窓会連合会会長）が学長室を訪れ、ゴルフ大会参加者219名からの寄附金（20万円）を前田芳實学長に手渡しました。寄附金は、4月15日に同委員会主催で開催された第37回 OB ゴルフ大会の参加者219人から母校のために使ってほしいと集められたものです。

受け取った前田学長は、「学生支援の充実などに大切にに使わせていただきます」と謝辞を述べました。

○鹿大「進取の精神」事業報告会を開催（5月29日）

5月29日、鹿大「進取の精神」事業報告会を開催しました。この報告会は、『鹿大「進取の精神」支援基金』へご寄附をいただいた企業・団体に対する謝意事業の一環として今年度初めて開催したもので、県内26企業・団体から34名の参加がありました。

報告会の第1部では、前田芳實学長から鹿児島大学の取組について現況報告がありました。続いて、農学部研究支援者の小森健太さんから「留学を通して」、法文学部の國料大夢さんから「学生と地域が繋がり鹿児島から」と題して発表がありました。続く第2部では、東京海上日動火災保険（株）の上原淳氏による「待つ採用」から「攻めの採用」へ進化～「採用ブランディングで優秀な人材を獲得する」～のテーマで講演が行われました。

参加者は、海外体験で視野を拓き地域活性化等に積極的に取り組む学生に大いに感心するとともに、常に就職人気ランキング上位に位置する企業の採用戦略についての体験を交えながらの説明に大いに納得した様子でした。

○各学部同窓会からの寄附金受納式を開催（6月11日）

6月11日、鹿児島大学同窓会連合会会長及び9学部の同窓会会長が学長室を訪れ、寄附金受納式を執り行いました。

各学部の同窓会より母校の発展・充実のため、鹿大「進取の精神」支援基金へご寄附をいただいております。この日の受納式では、各同窓会を代表して、江口正純同窓会連合会会長から前田芳實学長へ目録が手渡されました。受け取った前田学長は、「本学の教育研究のために大切にに使わせていただきます」と謝辞を述べました。

受納式後に開催された懇談会では、本学及び各同窓会が互いに近況報告を行うとともに、本学に対する意見交換を行いました。

○薩長同盟 150 年記念オリジナル焼酎「薩摩熱徒」制作発表会を開催（6月15日）

6月15日、鹿児島大学と山口大学が協力して制作したオリジナル焼酎「薩摩熱徒（さつまねっと）」の制作発表会を行いました。

この焼酎は、明治維新150年を記念して鹿児島市と山口市が始めた新たな薩長同盟プロジェクトの一環として、両大学の農学部が結成した「薩長同盟酒プロジェクト」により開発・製造されたものです。プロジェクトでは、両大学の学生と教員に地元の小学生が加わって、原料のサツマイモ（黄金千貫）と酒米（山田錦）を栽培しました。

制作発表会では、前田芳實学長から「150年余り前、近代日本の礎を築く若者たちがロンドンで交流したように、山口大学と本学が新たに築いていく薩長同盟の一つの証になれば幸いです。」と挨拶がありました。その後、プロジェクト代表の農学部の下田代智英准教授、農学部の佐々木香菜子さん、梶山萌さんが概要説明を行った後、「薩摩熱徒」を命名した優秀賞の工学部の郷稜海さん、準優秀賞の農学部の中園育孝さん、

ラベルデザインを手がけたデザイン賞の農学部の方原悠香里さんの表彰式が執り行われました。

制作発表会の後には、試飲会も行われ、集まった関係者方々にも「薩摩熱徒」を味わっていただきました。

○「UCL 稲盛留学生制度」：UCL との協定を締結（6月21日）

幕末時代の薩摩藩の精神を継承し、「進取の精神・気風」を備えた人材を輩出する理念の基、鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL 稲盛留学生」制度を設立し、6月21日、ロンドンにてユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）との協定を締結しました。

「UCL 稲盛留学生」は、Affiliate student として各分野における卓越した学問を修得することを目的として1年間 UCL へ留学します。

本学が、この「UCL 稲盛留学生」に求めるものは、「大きな将来性」であり、本学並びに我が国を代表する教育者や研究者になること、稲盛和夫鹿児島大学名誉博士のような我が国をリードする世界的企業人として活躍できる人物を目指すところにあります。

当日は、前田芳實学長一行と UCL アーサー学長一行と和やかな懇談が行われた後、調印式を執り行いました。

○在英国日本国大使館にて「維新150周年記念国際シンポジウム」を開催（6月22日）

6月22日、鹿児島大学、山口大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）並びに在英国日本大使館との共催により「維新150周年記念国際シンポジウム」を在英国日本国大使館にて開催しました。

幕末に命懸けで英国に渡り UCL で科学や技術などを学び新しい日本創りの原動力となった、「薩摩スチューデント」と「長州ファイブ」の精神を受け継いで、明治維新から150年となる記念の年に、関係の深い3大学が連携して地球環境問題や大規模災害の課題について世界へ向けてメッセージを送ることは極めて意義深いことです。

シンポジウムでは、今人類が抱えている地球規模の環境問題、大規模災害などの課題解決に向けて最新の科学技術をテーマに、宇宙科学技術、リモートセンシング技術、環境・防災技術をキーテクノロジーとして、安全で安心、かつ持続可能な人類社会を実現するための日英の研究動向について、日英の大学や研究機関の研究者が一般を対象に分かりやすく講演を行いました。

また、シンポジウム終了後に開催された交流会では、鹿児島の紅茶や焼酎の紹介を行い、鹿児島の特産品なども提供し、鹿児島の食に触れてもらう機会となりました。

○伊佐市と包括連携協定を締結（7月6日）

7月6日、鹿児島大学と伊佐市は包括連携協定を締結しました。本協定は、それぞれの有する資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としたもので、鹿児島大学が「地域活性化の中核的拠点」を目指して地域との連携を強化する取組の一環です。

伊佐市役所大口庁舎において執り行われた調印式では、前田芳實学長と隈元新伊佐市長による協定書への署名に続いて、隈元市長が「合併10年を経過し、急速な人口減少・少子高齢化や地域経済の衰退などの様々な地域課題を解決していく上で、鹿児島大学の有する資源を活用させていただき、将来的なまちづくりを進めていきたい」と挨拶。続いて前田学長から、「今回の協定締結を機に、米をはじめとする農産物や豊かな文化歴史など魅力あふれる伊佐市との連携協働を強化し、『地域活性化の中核的拠点』を目指す大学として積極的に地域社会の発展に貢献したい」と抱負が述べられました。

本協定に基づき、現在、伊佐市新庁舎建設検討会への教員の参画や、先般の霧島連山えびの高原硫黄山噴火に伴う川内川の水質問題対策ワーキング・グループを設置して、学術的な観点からの助言等をさせていただいております。

○前田芳實学長一行がブラジルを訪問（7月19日～7月25日）

ブラジル鹿児島県人会創立105周年記念式典及びブラジル日本移民110周年記念式典への参加を目的として、鹿児島県及び関係機関と共に、鹿児島大学関係者も7月19日～7月25日にブラジルを訪問しました。

訪問団は、本学からは前田芳實学長、高松英夫理事外1名で、7月20日到着後、サンパウロのイビラプエ

ラ公園内にある開拓先没者慰霊碑を参拝しました。次いで、ブラジル日本移民史料館を訪問した後、鹿児島大学OBとの懇談会を行い、これまでの鹿児島大学学生の南米実習への協力支援に対する感謝と今後の更なる推進について意見交換がありました。翌21日は、ブラジル日本移民110周年記念式典に参加し、会場はブラジル国内外から4000人以上が一堂に会する盛大な式典で、日本全国からも各県、大学関係者等の訪問がありました。最終日の22日は、ブラジル鹿児島県人会創立105周年記念式典に参加し、祝辞や功労者表彰のあと、参加者全員で“おはら節”を踊り、リオ・カーニバルのドラム演奏とダンスが披露され大盛況のうちに終了しました。

その後、鹿児島県費留学生・海外技術研修員OBと懇談会を行い、留学時の思い出や謝辞が述べられた後、意見交換がありました。

○『鹿大「進取の精神」支援基金』支援会第4回役員会を開催（7月30日）

7月30日、鹿児島大学で『鹿大「進取の精神」支援基金』支援会の第4回役員会が開催されました。

はじめに、岩崎芳太郎鹿児島県商工会議所連合会会長から開会の挨拶があり、続いて、本学から基金の募金状況及び平成29年度事業報告と平成30年度事業計画の説明がありました。

その後、活動報告として、本基金の学生海外派遣事業で約10ヶ月間、カンボジアとフィンランドへ留学した教育学部の地下智隆さんから、留学先での活動や帰国後の取組み、将来教員として実現したいこと等について発表がありました。

続いて、本学のグローバル化の取組について、馬場昌範副学長（国際企画推進担当）から説明がありました。また前田芳實学長からは、各分野における卓越した学問を修得することを目的として1年間、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）へ本学の優秀な大学院生を留学させる「21世紀版 薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL 稲盛留学生」事業の取組について説明がありました。

その後行われた意見交換会では、進取の精神支援基金の寄附をどこまで集めるのか、支援事業をどこまで拡大するかなどの質問があり、これに対して前田学長は、基金の趣旨に沿った事業は今後も持続的に続けていきたいと回答しました。

○鹿大と琉大 産学連携活動に関する連携協力協定締結（8月31日）

8月31日、鹿児島大学南九州・南西諸島域共創機構は、琉球大学地域連携推進機構との産学連携に関する協力推進に係る連携協定を締結しました。本協定は、両機構が有する資源やネットワークを共有・活用することにより、相互に地域社会（特に南西諸島域）に対して研究シーズや特許情報の発信や共同研究等のマッチング促進等による研究成果の効果的な還元を通じて、地域社会の発展や地域産業の振興に寄与することを目的としたものです。

琉球大学で行われた締結式では、本学の高松英夫理事（兼南九州・南西諸島域共創機構長）と琉球大学の須加原一博理事（兼地域連携推進機構長）による協定書への調印が執り行われました。挨拶の中で、須加原理事は「両大学の資源を活用し、相互補完しながら地域産業の活性化に貢献したい」と連携に対する期待を述べ、高松理事は、「共通の地域（フィールド）である南西諸島域の地域イノベーションの創出による地方創生に寄与していきたい」と抱負を述べました。

両機構は、新たに構築した鹿児島大学・琉球大学研究シーズ／特許情報検索システム「SearchKURU（サーチクル）」のWebページへの掲載を皮切りに、連携・協働して南西諸島域における産学連携活動を推進していく予定です。

○稲盛記念館寄附受納式を開催（9月7日）

本学工学部の卒業生で鹿児島大学名誉博士（京セラ株式会社名誉会長）である稲盛和夫氏から、本学の教育研究の充実・発展の場として、「稲盛記念館」をご寄附いただくこととなり、9月7日に寄附受納式を執り行いました。

受納式では、稲盛名誉博士から前田芳實学長へ目録が贈呈されました。続いて前田学長より、「稲盛記念館は、学生や教職員が日常的に集い、稲盛名誉博士の歩みや哲学等に触れ、コミュニケーションを図る場として、また、地域・産業界・国内外の研究者等との交流促進のためのおもてなしの場として、有意義に活用

させていただきます。そして、博士の魂を継承した世界をリードする人材が育ち、地域・産業界等との連携が更に強化され、本学の益々の発展に繋がるものと確信しています。」と謝辞が述べられました。

稲盛名誉博士からは、「何事も一所懸命、一心不乱に努力をすればできないものはないという教えを鹿児島大学で教わりました。どうぞ、今後大学関係者の皆さんが、努力をされ、若い学生諸君が、立派な社会人として成長されるよう教育指導を行っていただければと思います。」と激励のメッセージをいただきました。

稲盛記念館は、本学郡元キャンパス学習交流プラザ前に建設予定で、2019年10月に竣工予定です。

○学生海外研修「進取の精神海外研修 in ベトナム」を実施（8月25日～9月1日）

向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度（進取の精神）を養い、グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育むことを目的に、8月25日～9月1日に、学生海外研修「進取の精神海外研修 in ベトナム」を実施しました。

本研修では、約一週間のベトナム研修に加えて、事前学習、及び帰国後の報告会を実施しました。事前学習では、渡航先となるベトナムの地理・歴史、文化、経済、さらに日本との関わり等、基本的な情報を調査しました。また、帰国後に実施した報告会では、ベトナム滞在中の経験を改めて整理し、学生の自己評価を含めて得られた成果を取り纏めました。

○日本留学フェア（ベトナム）で鹿児島大学ブースを出展（10月7日）

10月7日、ベトナムの首都ハノイで開催された日本留学フェアに国際事業課の職員が参加し、鹿児島大学ブースを出展しました。

本フェアは、日本留学を志すベトナムの学生が適切な進学先を選択し、かつ実りある留学を達成できるようにするため、我が国の留学制度及び高等教育に関する情報を提供し、我が国への留学の促進を図る目的で独立行政法人日本学生支援機構が主催しています。セミナー会場では、同機構による日本留学の概要説明や帰国留学生の体験談の発表等が行われ、本学は、ブース会場において学校案内や募集要項等の資料展示及び配付、教育内容や入学試験に関する個別相談を実施しました。ハノイ会場には約1,700名が来場し、本学ブースへは約70名が来訪しました。本留学フェアを契機に、本学への留学希望者の増加が期待されます。

○教員の受賞等

- ①法文学部の竹岡健一教授が「日本出版学会賞」を受賞（5月12日）
- ②農学部の加治屋勝子講師が「かざん文化財団賞」を受賞（6月29日）
- ③水産学部の西隆一郎教授が「平成30年度海洋立国推進功労者表彰（内閣総理大臣賞）」を受賞（8月31日）
- ④水産学部の西隆一郎教授が「第147回水路記念日に伴う海上保安庁長官表彰」を受賞（9月14日）

○学生・大学院生の表彰等

- ①第65回記念県美展において、教育学研究科の堀之内聖さん（洋画）が鹿児島県美術協会賞、教育学部の山元昌俊さん（工芸）が新人賞を受賞
- ②理工学研究科の小濱祐さん、大山真也さん、山口徹さん、松本貴稔さんが日本-台湾二国間ワークショップ「Japan Taiwan Bilateral Workshop on Nano-Science 2018」で優秀ポスター賞を受賞
- ③理工学研究科の池元大喜さんが国際学会「2018 INTERNATIONAL SYMPOSIUM FOR ADVANCED MATERIALS RESEARCH (ISAMR 2018)」で優秀ポスター賞を受賞

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト <http://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

古本募金のご案内

本学では、10月1日から「鹿児島大学古本募金」を開始しました。古本募金とは、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が本学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

鹿児島大学古本募金 Web サイト <https://www2.kishapon.com/kagoshima-u/>

遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携信託銀行をご紹介します。提携信託銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

本学への遺贈をご希望される場合は、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、提携信託銀行へ直接お問い合わせください。

【提携信託銀行（五十音順）】みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店

遺贈によるご寄附 Web サイト <https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/izou.html>

税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係 TEL 099-285-3101／FAX 099-285-7034

E-mail s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 平成30年度（第66回）法文学部同窓会定期総会開催

平成30年11月17日（土）、城山ホテル鹿児島にて、高津孝法文学部長初め学部の先生方をお招きして平成30年度（第66回）法文学部同窓会定期総会を開催いたしました。

総会に先立ち、町田酒造（株）中村安久社長を講師としてお招きし、「元地銀支店長の新たなチャレンジ」という演題でご講演いただきました。

総会は、石塚幹事の司会で始まり、仮屋基美会長の挨拶のあと、平成29年度会務報告、決算及び監査報告、平成30年度予算案について諮られ、すべて承認されました。また、今回は2年に一度の役員改選があり引き続き、仮屋基美氏が会長に選出されました。

懇親会は、原口一陽新副会長が司会を務め、江口正純名誉会長の乾杯でスタートし、今回は女性8名の参加もあり、恒例の同窓生全員による近況報告もかなり盛り上がりしました。

宴もたけなわの頃、川井田副会長の巻頭言で「北辰斜めに」を全員で肩を組みながら斉唱し、最後に今村副会長の「万歳三唱」でお開きとなりました。なお、出席者は60名でした。



懇親会模様



北辰斜めに斉唱

2. 鹿児島大学法文学部同窓会会員名簿発行

鹿児島大学法文学部同窓会会員名簿を平成20年以来、10年ぶりに発行しました。まだ、申込んでなかった方はぜひ購入方よろしくお願い致します。1冊4500円です。連絡あり次第、郵送いたします。

*申し込み先 〒896-0065 鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局 福留克彦 電話 099-250-3211
携帯 090-7471-3954 F A X 099-285-3573
E-mail dousokai@leh.kagoshima-u.ac.jp

3. 第11回鹿大北辰ゴルフ会（文理・法文・理学部卒業生）コンペ開催

平成30年10月20日（土）南国カンツリークラブで開催されました。当日は天気にも恵まれ、紅一点石塚朝乃さんを参加を含む40名の参加で白熱したプレーが展開されました。成績は以下のとおりです。

優勝	平 啓博（S50年・理学部数学科卒）	ネット	72.2
2位	野崎 啓介（H6年・法文学部経済学科卒）	ネット	72.8
3位	南 勝（S49年・法文学部法学科卒）	ネット	73.6
ベストグロス	南 勝（S49年・法文学部法学科卒）	グロス	82.0

教育学部同窓会

鹿児島大学教育学部同窓会設立二十周年記念大会と平成30年度同窓会定期総会開かる

鹿児島大学教育学部同窓会設立二十周年記念大会と平成30年度同窓会定期総会が平成30年8月5日にジェイドガーデンで開催された。

午前8：30から受付

午前9：00～9：45定期総会を行い、わずか45分であったが、議長に久保正和氏を選出し、協議し、平成29年度事業報告と収支決算と監査、平成30年の事業計画、収支予算を審議し、了承された。

午前10時～10：50に記念式典を開催し、感謝状を同窓会の歌を作詞された元学部長の伊牟田経久氏、作曲された藤尾清信氏、石田匡志准教授に渡された。池之迫名誉会長、小屋敷教育長次長代理、江口同窓会連合会会長の来賓から祝辞を頂いた。

同窓会の歌「我が友よ」の作詞へ思いを伊牟田経久氏に語ってもらった。

同窓会の歌「我が友よ」を藤尾清信氏に指揮を、石田匡志准教授にピアノ伴奏頂き、音楽専修生に斉唱してもらった。予定の時間を10分オーバーしたが、そのまま押し下げて、愈々下野竜也氏の記念講演となった。

記念講演では指揮を志すまでのことと、指揮の違いによって音楽が全く異なるものになることを、鹿大オーケストラ部を使い実演された。観客の大半は「本物はすごいな」という声が多かった。

13：00からは同窓会設立20周年記念祝賀会で52年卒の久永守世話係の開会のあいさつ、石神正明会長のあいさつ、池之迫静男名誉会長のあいさつに始まり、開宴となった。主席者全員で鹿児島大学教育学部同窓会設立の歌「我が友よ」を何回も斉唱した。それぞれ、懇親が始まった。



定期総会 会長の挨拶



記念式典 「我が友よ」の披露



記念講演 下野竜也氏の指揮



祝賀会 「我が友よ」の斉唱

理学部同窓会南明会

2018年理学部祭報告

理学部同窓会南明会代表幹事 有馬 一成

昨年の鹿大祭から、毎年恒例だった鹿大祭のみこしパレードでしたが、昨年の鹿大祭から中止になりました。私自身、在学中に2度みこしを担ぎました。いい思い出でもある反面、少なからず多くの方々に迷惑をかけたことを反省しています。

さて、学生が盛り上がるだけの色彩が強かった鹿大祭ですが、私が鹿大の教員として学生生活委員をしていた10年ほど前に「理学部祭」を本格的にスタートさせました。理学部祭として、お客さんに楽しんでもらうためにどうすればよいか学生と話し合っ、各学科の得意分野を活かした実験企画をすることに落ち着きました。それから10年が経ち、今年は各学科から10の企画が提供されました。企画の内容は以下の通りです。

数理情報：ミステリーアドベンチャー（パズルやゲームの世界） 物理科学：ガリガリトンボを作ろう、液体窒素で遊ぼう、手作りプラネタリウムで天の川を探そう 生命化学：自分で作れる手作り石けん&入浴剤、スライムでスマイル、インスタ映えするキャンドル、葉脈のしおりをつくろう 地球環境：葉っぱを銀色にメッキしよう、干潟について学ぼう

どれも面白そうなテーマで、どの企画も親子連れでいっぱいでした。理科を好きになるための第一歩は好奇心です。実験に参加している子どもたちの目はどの目も活き活きしていて、このまま興味を持ち続けてくれば日本の将来は安泰でしょう。また、鹿大祭と同時に開催された秋のオープンキャンパスには、25名の受験希望者が参加して盛況でした。

今年もみこしパレードのない鹿大祭ではありましたが、何と云っても主役は学生、これからもアカデミックな雰囲気の新しい鹿大祭の歴史を作っていくてもらおうよう、学生諸氏には大いに期待しています。



(1)



(2)



(3)

写真(1) 理学部祭受付 (2) スライムづくりの様子 (3) 秋のオープンキャンパス会場

医学部同窓会

鹿児島大学医学部開学30周年記念歌―「あ々鶴陵に」

医学部医学科同窓会鶴陵会 会長 高松 英夫

医学部は開学30周年記念歌として「あ々鶴陵に」を制作している。楽譜には昭和48年4月制作と書かれており、小生の卒業は昭和48年3月なので記憶にあっても良いと思うのだが、全く記憶がない状況である。多分、卒業間近で卒業試験、国家試験の準備に集中していたため、関わりがなかったものと考えられる。作詩は当時の第1外科の西 満正教授であり、西教授は音楽への造詣が深かったと聞いている。作曲は吉崎清富とあり、当時教育学部の助教授でその後東京学芸大学教授として転出されている。この曲は巻頭言を有し、楽譜の下には制作後記として「鶴陵の記」が記されている。鶴丸城の名の由来、鶴陵会の名の由来、明治維新後のウィリアム・ウィリス、鹿児島医学専門学校からの歴史、そして翌昭和49年に現在の桜ヶ丘（当時は亀ヶ原と呼ばれていた）に移転する事が書かれている。創立50年史を見ても「あ々鶴陵に」制作のいきさつは書かれていない。鶴陵会報をたどってみると4号に30周年記念事業の一環として医学部の歌を公募することが記載されている。「あ々鶴陵に」のお披露目は、学友会が主催した鹿児島大学医学部開学30周年記念祭典であり、医学部合唱団がこの中で記念祭歌を演奏したと書かれていた。50周年の祝賀会では米澤先生のソロ、フロイデコールの演奏で「あ々鶴陵に」が歌われた。平成20年（2008年）に有志の努力で七高寮歌・各学部歌を録音したが、その中に「あ々鶴陵に」を入れてもらったこともあり、鶴陵会の集まりでも歌ってもらうようにしている。

保健学科同窓会活動報告

保健学科同窓会理学療法学専攻部会 会長 宮崎 雅司

さる10月5日に鹿児島市内のホテルにて保健学科設置20周年記念祝賀会が盛大に執り行われました。私も理学療法学専攻部会会長としてお呼び頂き、参加しました。記念の写真撮影や素晴らしい祝賀会会場、懐かしい先生方や顔見知りの先生方の笑顔、大変素晴らしい祝賀会でした。会では、鹿児島県の関係者や、県医師会、県看護協会、県理学療法士協会、県作業療法士協会、医学部長などの多くの皆様よりご祝辞を頂くだけでなく、保健学科設置への道のりやその当時の様子、保健学科へのこれからの期待など興味深いお話を伺えました。特に保健学科設置に尽力された鋒之原先生のお話は、当時の先生方の情熱と努力を感じました。勉強はそこそこに、野球ばかりに打ち込んでいた私の学生生活を振り返り、大変申し訳ない気持ちになりました…。会の終盤には現役生より現在の大学生活の報告があり、変わらぬ学生生活を懐かしく感じるとともに20年という時間の経過を感じました。

保健学科設置のために尽力された先生方や関係者の皆様の情熱と信念をこれからも引き継げるよう、同窓会を充実させていきたいと感じました。最後となりましたが、祝賀会の準備に奔走されました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

歯学部同窓会

4月6日	入学式終了後父兄会（後援会）と教授会との主催で新入生保護者との昼食会をサンロイヤルホテルにて開催
4月7日	鹿児島大学同窓会連合会総会に参加
4月15日	鹿児島大学 OB 学部対抗ゴルフ大会、歯学部準優勝（蒲生カントリークラブ）
5月21日	神奈川歯科大学創立100周年記念行事に参加
6月20日	教授会との協議会開催・懇親会（8月4日 鹿児島サンロイヤルホテルにて）
6月17日	愛知学院大学創立50周年記念行事に参加
7月22日	オールデンタル壮行会（学生主催の壮行会に役員参加）
8月2日	第一回評議員会が開催
8月4日	教授会との協議会の懇親会開催（鹿児島サンロイヤルホテル）
8月11日	第65回全国歯科大学同窓・校友会懇話会（徳島）
12日	平成30年度国公立大学歯学部同窓会連絡協議会（徳島）
9月下旬	会報誌第27号発刊
10月27日	九地連同窓会懇親会（佐賀開催）

平成30年度 オールデンタル壮行会

7月22日ジェイサイドガーデンパレスにて恒例の歯学部オールデンタルの壮行会が開催されました。文化系サークルも応援に駆けつけ、数百人規模の会となりました。

全国的に厳しい豪雨と猛暑の中ですが、安全にそしてベストを尽くして頑張ってください。

〔参加サークル〕

陸上部、水泳部、剣道部、空手部、ボウリング部、バトミントン部、硬式テニス部、軟式テニス部、バレー部、バスケットボール部、卓球部、フットサル部、サッカー部、弓道部、管弦楽部、国際交流部、歯科研

文責 後藤雄一



工学部同窓会

平成30年度の工学部同窓会の主な活動内容について、以下にご報告いたします。

(1) 第38回鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会

平成30年6月9日(土)に大分センチュリーホテル(大分市)にて開催されました。本会は、工学部の卒業生だけでなく、法文学部、理学部、農学部の卒業生も参加されています。総会では、佐藤諄之助名誉支部長(建築S23卒)、福田公則副支部長(電気S38卒)のご逝去の報告を受け、参加者全員で黙祷を捧げました。引き続き開催された懇親会にも18名が参加し、和気藹々とした雰囲気、懇親会後の二次会まで盛り上がりました。



第38回 鹿児島大学工学部同窓会大分県支部総会 平成30年6月9日 於大分センチュリーホテル

(2) 平成30年度鹿児島大学工学部同窓会拡大幹事会・岸園賞選考会・司会

平成30年8月17日(金)にジェイドガーデンパレス(鹿児島市)にて開催されました(本会の詳細は、工学部同窓会誌南桜風(2019年3月発刊予定)をご参照ください)。

○拡大幹事会

昨年度の運営報告(「進取の精神支援基金」に300万円の寄附金贈呈など)と今年度の運営計画について審議し、満場一致で承認されました。

○「岸園賞」選考会

「岸園賞」とは、寄付者の岸園司氏のご遺志である「鹿大の発展を。工学部同窓会の発展を」という理念のもと、鹿児島大学工学部の名を高めた方、あるいは工学部同窓会活動に尽力した方を表彰するものです。今年度は、炭谷圭二氏が推薦され、氏の受賞は満場一致で決定しました。

○第7回「司会」

今年度は、平成29年度「岸園賞」受賞者の今村彬氏(電気S29卒、前同窓会会長・鹿児島大学同窓会連合会関東支部長)、福井泰好氏(前工学部長)をお招きし、総勢49名での開催となりました。松永洋文工学部同窓会会長より、「岸園賞」受賞者へ表彰状と記念品の贈呈が行われ、今村氏、福井氏より、これまでの同窓会活動についてご講演をいただきました。引き続き開催された懇親会は、同窓生および産学官の連携推進を図る良い機会となりました。



平成30年度 鹿児島大学工学部同窓会 第7回 司会 平成30年8月17日 於：ジェイドガーデンパレス

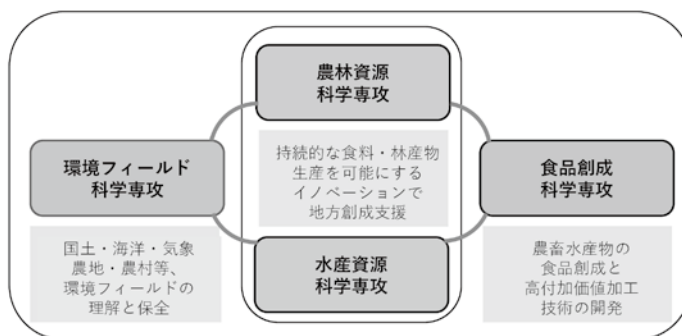
(文責：工学部同窓会会計幹事 山元 和哉)

農学部あらた同窓会

「農学部あらた同窓会」では毎年春季号（一般会員向け）と秋季号（学生向け）の2回「あらた同窓会報」を発行している。ここでは、平成30年11月23日発行の「あらた同窓会報平成30年秋季号」から2つの記事を簡単に紹介します。

1. 「農林水産学研究科」の新設

農学部長・農学研究科長の岩井 久先生に、「平成最後の改組「農林水産学研究科」というタイトルで、平成31年4月予定の大学院修士課程の改組について紹介していただきました。それを要約すると、社会からの要請が高い、農学と水産学の両分野にまたがる高度な知識を有する人材を養成するため、既存の農学研究科3専攻と水産学研究科5分野を統合し、4専攻からなる大学院農林水産学研究科を設置することとし、8月に文科省から認可されました。ただし、学部組織である農学と水産学の両学部は、現行通りの教育組織を堅持し、専門基礎教育を重視しています。右図に農林水産学研究科の全体像を示しました。すなわち、食品創成科学専攻は、食品科学、先端生命科学、焼酎発酵・微生物科学の3コースで構成される農水融合型専攻で、食品・生命科学関連産業において指導的立場での解決能力を有す人材を養成します。環境フィールド科学専攻も融合型で、生物環境科学と環境システム科学の2コース



新設される農林水産学研究科（修士課程）の全体像

で構成され、南西諸島や南九州陸海域の環境保全、生産環境・基盤に関する実践的知識と先進技術を身につけた、地域社会で中心となる人材を養成します。農林資源科学専攻は植物生産科学、畜産科学、森林科学、食料農業経済学の4コース、そして水産資源科学専攻は生物資源科学、増養殖学、環境保全学、流通・政策学の4コースで構成されます。それぞれの専攻は、伝統分野を継承しつつも、その一方で、担い手不足解消や新規参入推進に資するIoT（Internet of Things; モノのインターネット＝全ての作業機械や生産現場がネットで繋がり情報収集やオペレーションができるコンセプト）をより強力に進めます。

2. 学生向け講演会（平成30年7月26日開催）

毎年、農学部との共催で行っている平成30年度「学生向け講演会」は、今年度は「海外での学び」をテーマにして行った。まず、グローバルセンターの畝田谷桂子先生に「海外での学びを選択肢に入れてみよう」とお話いただき、次いで実際に海外留学した二人、生物生産学科4年の有馬航輝君に『越境する力 トビタテ！鹿大生』というタイトルで、文部科学省の「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」派遣留学生に採択されてオーストラリアに「馬術留学」した経験を、生物環境学科の日吉恵理さんには「休まぬもの、働くべからず」というタイトルで、学術協定校であるスウェーデンの Linköping 大学へ交換留学をした経験を、現地でのスライドも使いながら話をいただいた。



学生向け講演会会場風景

（文責：農学部あらた同窓会常任副会長 富永 茂人）

ふね遺産に登録された 鹿児島商船学校練習船『霧島丸』遭難碑

日本海洋船舶工学会は歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるため、ふね遺産認定事業を実施しています。

平成30年5月17日に開催された第2回ふね遺産審査委員会での審議により、ふね遺産認定案件として鹿児島大学水産学部内に設置されている鹿児島商船学校・練習船『霧島丸』の遭難碑などが認定されました、認定式は平成30年7月20日(金)に明治記念館(東京)にて執り行われました。

練習船「霧島丸」の遭難碑

練習船の革新を促した海難事故を今に伝える鹿児島大学 水産学部下荒田キャンパス内に設置。

昭和2年(1927)年3月9日、県立鹿児島商船水産学校の練習船『霧島丸』(998トン、4本マスト・バーケンティン型)は、南洋への遠洋航海中に海況の急変による壮烈な嵐に遭遇して犬吠埼沖で遭難し殉職者53名(実習生30名)を出しました。

この海難を機に世論が押し上げられ、初代『日本丸』・初代『海王丸』の建造に至りました。加えて、日本の練習教育での安全性重視の理念のもとに旧航海訓練所(旧文部省)が設立されました。

本遭難に関するモニュメントとして、明治時代、日本海海戦において当時の世界最強のロシア艦隊を破り勝利に導き東洋のネルソンと称えられた鹿児島県出身の東郷平八郎元帥(当時)が揮毫した「壮烈」と題する石碑および記録物が鹿児島大学水産学部内に残されており、犠牲者の氏名が刻まれています。本遭難碑は日本近代練習船教育の礎となる事象を後世に伝えています。

同時受賞したのは

氷川丸

昭和初期の技術を今に伝える現存貨客船、博物館船として横浜港山下公園に停泊公開中。

初代『海王丸』

現存する最古の日本建造練習帆船・富山県射水市海王町『みなとオアシス海王丸パーク内』停泊公開中。



在りし日の霧島丸



鹿大水産学部内の壮烈の碑

共同獣医学部紫友同窓会

本年度より同窓会連合会に新規加入させていただきましたので、ここまでの活動等についてご報告します。

1. 事務局会議

5月30日（水）に学部内で事務局会議を開催し、評議員会で審議する議題及び報告事項について検討しました。その後場所を学外に変えて、会長及び副会長を囲んで懇親会を開催しました。

2. 評議員会

6月16日（土）にジェイドガーデンパレスで評議員会を開催し、議題として、①役員改選、②平成29年度事業報告及び決算、③平成30年度事業計画及び予算（案）について審議され、満場一致で承認されました。特に役員改選では、三役の一新が行われ、これまで10年に渡り同窓会を牽引してこられた西中川駿会長が勇退されて顧問に、新納時英副会長が会長に、副会長には梶哲郎、鶴田勉、宮下善穂、松元光春の4氏、監事に石黒茂、伊地知洋幸、吉満文隆の3氏がそれぞれ就任することになりました。また、予算審議の中で、鹿大「進取の精神」支援基金に平成28年に引き続き100万円の寄付金を拠出することも承認されました。報告事項として、①学部の現況、②同窓会連合会への加入が報告されました。学部の現況については宮本学部長から説明があり、学部としてグローバル化を積極的に推進しており、アメリカの動物福祉の認証機関である AAALAC インターナショナルより総合動物実験施設が完全認証を取得したこと、来年6月には EAEVE（欧州獣医学教育機関協会）の公式診断を受けることの紹介がありました。また一方では、地域貢献として徳之島町の牛の受精卵センターとの連携や世界自然遺産登録を目指している奄美地域のノネコ対策に協力していることなどが報告されました。会議終了後、坂本紘評議員による乾杯の発声を皮切りに賑やかな懇親会となり、盛会裡に終了しました。

3. 会報4号の発刊

同窓会の会報である「紫友」の第4号を12月中旬に発刊しました。この会報は会員相互の情報共有のツールとして活用してもらうことを目的に、同窓会の活動報告を主な内容として年1回この時期に発刊しています。今回は「鹿児島大学古本募金」のチラシも同封し、会員へ募金協力を依頼しました。



獣医学科創立50周年記念（1989年）に建立された「紫友之碑」。

碑面の短歌は大原俊男氏（2期生）作。大動物診療センター前設置。

▶特別寄稿文◀

辞書を読む

教育学部同窓会副会長 東 寛 治
(教育学部昭和43年卒業)

学校や行政に勤務していた現職時代はいつも身近に辞書を置き、よく活用した。言葉の力を生徒たちに教えることを仕事としていた国語教師にとっては、編者が言葉をどのように簡潔に説明しているか、どんな用例を載せているか等を比較しながら、言葉の意味を理解する必要があったからである。

現職を退いてからも辞書を身近に置くという習慣は変わっていない。しかし、その活用の仕方は違ってきた。現職時代は時間的制約の中で、辞書は「調べるもの」であったが、現在は時間的制約も受けず「読むもの」となった。だから、今まで気付かなかった言葉の周りにあるものがよく見え、予想だにしない思いがけないものを発見する時がある。

例えば、「子育て」の意味を読んだ時もそうだった。[以下「新明解国語辞典」(三省堂)による]

【子育て】 親としての責任を負って、生まれてから身の回りのことがひとりでできるくらいになるまで子供の世話をすること。

簡潔な文ではあるが、子育てとはどんなことかを教えてくれる。

- ① 親の責任だということ
- ② 身の回りのことがひとりでできなければ子供であるということ
- ③ 親が子供の世話をすること

さらに、「親」「世話」を読んでみると、次のように書いてある。

【親】 その人を生んだ[と変わらぬ情愛を持って養い育ててくれた]一組の男女。
【世話】 その人自身の力では出来ないことを力・知恵などを貸して助けてやること。

子供が成長するにつれて、親が「変わらぬ情愛」を忘れがちになることを戒め、子供の虐待防止をも呼びかけている。また、親は子供にあれこれと口も手も出したくなるが、力や知恵は貸すのであって与えるものではないということも指摘している。

このように辞書は、言葉の本質的な意味がよく理解できるように丁寧に書かれている。そればかりではない。思わず失笑した言葉もある。

【公 僕】 [権力を行使するのではなく]国民に奉仕する者としての公務員の称。[ただし実情は、理想とは程遠い]

官僚や地方公務員の不祥事のニュースを聞くたびに[]書きを思い出して苦笑するが、言葉には辞書的な意味以外の意味もある。それを補う編者の識見の高さと情熱には感服せざるを得ない。

「書を読む」ことについて、辞書は次のように説明する。

【読 書】 [研究調査や受験勉強の時などと違って]一時現実の世界を離れ、精神を未知の世界に遊ばせたり人生観を確固不動のものたらしめたりするために、(時間の束縛を受けること無く)本を読むこと。[寝転がって漫画本を見たり電車の中で週刊誌を読んだりすることは、勝義の読書には含まれない]

このような読書のできる今、精神を辞書の中の未知の世界に遊ばせて楽しみ、人生観を不動のものとしたい。(未知を知る楽しさに辞書読み耽る)

▶特別寄稿文◀

学生と取り組む天文学研究施設

理学部同窓会南明会幹事（物理科学）中川 亜紀治

明治34年（1901年）開校の旧制第七高等学校造士館にルーツを持つ鹿児島大学理学部ですが、百年を超えるその歩みの中で新制大学へと移り変わり、昭和40年（1965年）の理学部創設、平成16年（2004年）の国立大学法人化を経て今日を迎えます。教育機関の置かれ方の変遷は、いつの時代においても、その教育効果をより良い社会の実現へ結びつけたいと願った先人たちの思いの発現ではないかと思えます。その流れは普遍的なものであり、近年も社会における大学の在りようはたびたび議論され、学生と向き合う現場でも様々な模索が続くのを肌身で感じています。ここ10年程で見られるようになった、とても現代的な活動の一つに、市民に対する研究現場の公開が挙げられるでしょう。本稿ではその一例としての催しを紹介します。

筆者が属する鹿児島大学理学部物理科学科宇宙コースは電波と赤外線による観測天文学が盛んです。平成13年（2001年）に国立天文台 VERA プロジェクトの直径20メートル電波望遠鏡が農学部入来牧場内に建設され、私たちが暮らす天の川銀河の立体地図作りを目標にした研究が始まりました。地球の公転が星の運行に投影されることによる見かけの動き（年周視差）を精密に計測することで、従来にない高い精度で星の距離を測定することができ、研究は今も続いています。その現場を学生と教員が共に市民向けに紹介する場としての催し「八重山高原星物語」も始まりました。薩摩川内市、鹿児島大学理学部などの多くの共催によるこの催しは毎年8月の上旬に開催されます。人里離れた山間部にも関わらず、この日の観測所は多くの人で賑わいます。催しの目玉は高さ23メートルの電波望遠鏡へ上る見学ツアーで、アンテナの上からは西に川内川と東シナ海、東には錦江湾奥部の隼人周辺を望むことができます。理学部を中心とする学生たちは、多くの大人や子供たちに天文学の新たな知見や自身の研究について生き生きと語ることができます。また、その際の周囲の眼差しや態度からは、日頃の研究の枠を超えて、自分たちと社会とのつながりも感じ取っています。

鹿児島大学同窓会の皆様方、新しい元号となる2019年の8月、どうぞ入来観測局へおいで下さい。現在の大学の雰囲気の一部を感じていただけると幸いです。涼しい入来の高原で学生と共にお待ちしております。



写真上：国立天文台 VERA 入来観測所と鹿児島大学 1 m 光赤外線望遠鏡ドーム

写真左：学生の話に聞き入る子供たち 写真右：理学部を中心とした学生たちと筆者（左端）

キャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2018！」

～「西郷どん」を超えろ！ひっとべ、鹿大生！～

日時 2018年12月1日（土） 14：00～16：30

場所 【第1部】学習交流プラザ2F 学習交流ホール 【第2部】学習交流プラザ2F 学習ラウンジ3・4

ゲスト

司会	柳 和宏氏	川崎重工業（株）九州支社長（1982年工学部卒業）
説明	高原 要次氏	ラーニングシステムズ（株）代表取締役社長（1972年法文学部卒業）
講師	後藤 聖司氏	九州医療センター脳血管・神経内科医長（2001年医学部卒業）
	徳竹公司郎氏	学校法人国際医療福祉大学人事部長（1982年水産学部卒業）
	臂 博美氏	公益社団法人福岡県食品衛生協会参事 （1985年農学部卒業・1987年農学研究科獣医学専攻修了）
	多田 陽子氏	多田陽子税理士事務所 （2002年法文学部卒業・2004年人文社会科学部研究科経済社会システム専攻修了）
	池田 篤氏	元九電みらいエナジー（株）常務取締役（1976年工学部卒業）
	福島 亮 氏	九州電力（株）送配電カンパニー配電本部再エネグループ （2004年工学部卒業・2006年理工学研究科電気電子工学専攻終了）
	朝崎 勝之氏	九州電力（株）テクニカルソリューション統括本部土木建築本部土木建築技術センター長 （1985年工学部卒業）

2017年12月に引き続き、キャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2018！」が開かれました。4回目となる今回は鹿児島大学同窓会連合会福岡支部「福岡北辰斜の会」が講師（先輩スピーカー）を務めてくださいました。オープニングで2015年スタート時の企画・運営にあたった高原氏より、本会の開催に至った経緯やエピソードなどを交え、本会に寄せる先輩たちの思いを込めながら趣旨説明がありました。

第1部の全体セッションでは各講師1人ずつ自己紹介に織り交ぜて、これまでの経歴や失敗談、経験から後輩たちに一番伝えたいこと、などをお話してくださいました。

第2部では各講師を囲み、7グループに分かれて座談会が行われました。

ゲストの職業や社会での立場は様々ですが、社会人の先輩として参加者の皆さんにできるだけたくさんの質問に答え、一緒に考え、アドバイスをしてくれました。

現場で求められるものは、コミュニケーション能力と対応力であり、学歴や偏差値は関係ない、いろいろな人と交流を持ち、本や新聞等をたくさん読んで幅広い情報を集めて人間力を磨いておいてほしい。また資格取得にも取り組み、対応力が身に付けられるよう、学生のうちに時間を大いに活用して自分を高めていく努力をしてほしい、といったことなど、参加した学生の約88%が会后アンケート（回収率81%）で「参加して有意義だった」と答えていることから、しっかり届いたことがうかがえます。

エンディングでは今回のゲスト全員に前田学長より、新設された鹿児島大学名誉キャリアサポーター第1号として一人ずつ委嘱状が授与されました。

最後に江口正純同窓会連合会会長より、セミナーを無償で開いてくださっているメンバーの方への感謝をお伝えするとともに、先輩方と学生を繋ぎ、現場の生の声を聞けるこのセミナーが今後も回を重ね、学生達の道標となる事を祈念する挨拶をもって、本会を締めくくりました。



鹿児島大学同窓会連合会総会 ならびに 懇親会～卒業生の集い～開催のお知らせ

鹿児島大学同窓会連合会では、毎年入学式後の最初の土曜日に総会ならびに懇親会～卒業生の集い～を開催しています。旧友や先輩・後輩との久しぶりの再会に話も弾み、和やかな雰囲気の中、さらにお互いの親睦を深める会となっています。卒業生であればどなたでも大歓迎ですので是非ご参加ください。参加ご希望の際は、各学部同窓会事務局へご連絡ください。

記

2019年度 総会ならびに懇親会～卒業生の集い～

期 日：2019年4月6日（土） 於：SHIROYAMA HOTEL kagoshima(旧 城山観光ホテル)

時間・会場：総会 16時～17時 3F サファイア

懇親会 18時～20時30分 2F アメジスト

参加費：6,500円

*上記を予定しておりますが、変更される場合がございます。詳しくは
同窓会連合会 HP <https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/> をご覧ください。

< 2018年度の様子 >



水産学部 近況報告



農学部 近況報告



理学部 近況報告



懇親会



参加者募集

初心者歓迎



第38回

鹿児島大学 OB ゴルフ大会

開催日 2019年4月21日(日) 第3日曜日 午前7時30分頃スタート

場 所 蒲生カントリークラブ(桜島コース・霧島コース・祁答院コース)

始良市蒲生町米丸2448 TEL0995-52-0381

参加費 2,500円

その他 各学部上位10人の平均ネットスコア(ダブルペリア方式)で順位を決定する。

*昨年度成績 団体優勝:教育学部 団体2位:歯学部

(今回もセルフプレーでの参加もできます。ご希望の方はお申し込みの際、各学部実行委員へお申し出ください。)

募集締切 2019年3月22日(金) 募集定員300人

お問い合わせ先

同窓会連合会のホームページをご覧ください

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/>

学部別実行委員

水産	TEL286-4080	fax286-4080	(辻口)
農・共同獣医	TEL285-8690	fax285-8690	(平)
医	TEL812-1133	fax812-1677	(上野)
法文・理	TEL254-7111	fax254-7101	(大重)
教育	TEL254-9664	fax254-9664	(山元)
歯	TEL286-6480	fax286-4484	(濱崎)
工	TEL285-3408	fax285-3408	(淵田)
本部職員	TEL286-4111	fax286-4015	(西元)

同窓会連合会事務局

(医学部同窓会事務局) TEL 099-275-6881

FAX 099-265-9784

E-mail: kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

(開局日: 木曜を除く 平日 9:00~16:00)

懐かしい顔ぶれと共に、珍プレー好プレー続出です!一緒に楽しみましょう!!



鹿児島大学同窓会連合会並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会

〒 890-0075
鹿児島市桜ヶ丘 8 - 3 5 - 1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒 890-8544
鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 3 5 - 1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒 890-0065
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 3 0
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousokai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒 890-0065
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 4 0
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousokai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒 890-0065
鹿児島市郡元 1 - 2 0 - 6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒 890-0065
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 2 4
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail arataikai@mc2.seikyounet.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒 890-0065
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 3 5
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会

〒 890-0056
鹿児島市下荒田 4 - 5 0 - 2 0
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒 890-0075
鹿児島市桜ヶ丘 8 - 3 5 - 1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒 890-0065
鹿児島市郡元 1 - 2 1 - 2 4
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3538/8711 (FAX 兼用)
e-mail k2088185@kadai.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒 890-0075 鹿児島市桜ヶ丘 8 - 3 5 - 1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

印刷 斯文堂株式会社

〒 891-0122 鹿児島市南栄 2 丁目 12 - 6
TEL 099-268-8211 FAX 099-269-5198
e-mail info@shibundo.jp